法人広報誌

つどい

社会福祉法人 つどいの家

第 33 号

令和 4 年 2 月 28 日
発 行 者
社会福祉法人　つどいの家
理 事 長 佐 藤　清
〒984-0838　仙台市若林区
上飯田一丁目 17-58
TEL　022（781）1571
FAX　022（781）1573
URL：www.tsudoinoie.or.jp

つどいの家・コペル20周年

平成 14 年　コペル祭

平成 22 年　夏祭り

平成 28 年　ビック幡in東大寺
（作品参加）

平成 13 年　開所式

平成 29 年　ほぼ全員コペル

～コペル２０年を経た年に～

理事長　佐藤　清

つどいの家コペルが、もうすぐ満２１歳を迎えます。

振り返れば２２年前の４月、バス地下鉄会社の経理課長から全く未経験の障害企画課長を拝命し、療育センター（現アーチル）整備、精神科救急、養護学校卒業生の進路先確保等々様々な事務に追われる中で、コペル建設も大きな課題でした。

地域に開放されていた遊休市有地の一部を使用して建設という特別の事情もあり、関係者の理解協力を得るのには多くの時間と労力を必要としました。「地域に施設があって交流すれば、地域の子供たちの成長にとっても絶対にプラスになる。」と確信はしていても、なかなか理解を得られずくやしい思いもしましたが、当時の理事長等関係の皆様の努力により地域の理解を得、最終的には市文書法制課の応援も得て民事調停を経て円満に解決でき今に至っていること、感慨深く、また、齢もとる訳だとの思いを抱いています。

利用者主体に地域とともに歩むことを旨としているつどいの家にとっては、厳しい状況が続いています。オミクロン株による新型コロナウイルス感染拡大は予断を許しません。感染力の増強を考えれば従来以上の緊張感をもって運営していくことが必要で、まだまだ活動に制約を受けざるを得ませんが、ケースワークの充実など今できることを確実に行って、利用者本位の支援を更に追及していきたいと思います。

さて、私事になりますが、コロナ拡大に加え兄の喪に服していたこともあり、ほぼ引きこもっていたこの年末年始でした。かつて読んだ本の印象に残っているところを読み返したり、録画したテレビ番組を見たりしていましたが、その中で強く考えさせられたものがありました。それは、ナチスが政権を獲得し崩壊に至る過程を描いたドキュメンタリーで、嘘や謀略も厭わず全権委任法などでワイマール憲法を無力化させ、国民も熱狂して戦いを始め、そしてドイツの崩壊と隷属（それは同時に人間蔑視の体制からのドイツ人自身の解放という側面も。）に至る過程を取り上げたものでしたが、やはり、ドイツが降伏しヨーロッパの戦争が終わった１９４５年５月８日とヒトラーが政権についた１９３３年１月３０日とを切り離すことはできないのだとの思いを強くした次第です。

日本においても、１９３３年、学問の自由の弾圧（京大滝川事件）があり、国際連盟を脱退。その後２．２６事件、盧溝橋事件、国家総動員法、ノモンハン事件、三国同盟、大政翼賛会などを経て日米開戦に至り４５年８月を迎えます。日本における崩壊の始まりを２５年の治安維持法制定あたりまで遡るべきかなど議論はあるでしょうが、少なくとも３３年から４５年に至る日独の歩みは見事に符合しているように思えてなりません。

コロナ禍の中での社会の分断、しょうがいしゃ差別、マイノリティや外国人差別、沖縄に犠牲を強い続けていること、社会的弱者に対する安易な自己責任の吹聴、科学と記録の軽視、改正すること自体が目的化しているかのような憲法改正の喧伝、世界各地で頻発している紛争や人権問題等々の現状に目を向けるとき、第二次世界大戦開戦に至る時期の社会情勢と重なる部分があるように思えて仕方ないのです。

そんなことを考えていた折、学生時代の恩師から年始状が届きました。そこには、「夜は更け、日が近づいている。それだから、わたしたちは、闇の業を捨てて、光の武具を着けようではないか。（ロマ書）」「（日米開戦に至る時期）その背後にあった人の心と社会の闇は、今日また世界的に深まり、広がりつつあるように思われます。“心に堅く天来の光の武具を”との呼びかけが聴こえます。」とありました。心に染み入る言葉でした。まさに今、世の中に広がりつつある風潮、心の闇は、「どんなに重いしょうがいのある人も、地域社会で差別されることなく、いきいきと自立した地域生活ができるよう、自己実現の場を保障し、支援する」というつどいの家の理念とは相容れないものです。

沖縄施政権返還５０年のこの年に当たり、社会の諸事象を受け流すことなく直視し、愚直に歩む姿勢を持ち続けたいと思います。

（令和４年１月25日）

「つどいの家・コペル」の２０年を振り返って

2001年4月（平成13年）開設　東北初の複合施設（更生施設、デイサービス、重心通園施設）

平成 13 年に社会福祉法人つどいの家の施設建設説明会に出席した時からのお付き合いでありました。当時地域町内会長であった関係から、心身障害者への理解と協力の必要性を感じ、地域の人々への話し合いに応じることへのつながりが初めてでありました。

大変残念なことに、障がい者に対する偏見もないわけではありませんでした。しかし、障がい者への生活支援、心の支援は地域の人々とのつながり、即ち理解と配慮がとても大切と感じたわけです。

これが現実として当地区に施設として建設され、地域の人々にも愛され地域と一体となって、町内行事の盆踊り大会への参加やら話し合いなどによって結実したことを本当に喜ぶ一人です。

私も病気で入院した経験はあります。寂しさが募ります。しかし、家族や友人たちの見舞いと励ましに接した時の感動や感謝は今でも忘れることがありません。そんな行為が施設と地域の中に生まれることが何と言っても一筋の光明と励ましとなって、施設の人々と地域の結びつきができ、心身障害者への力となって明るい生活をエンジョイすることが、施設と地域の良き結びつきと感慨を深くしております。

時々、利用者の方々が施設の職員と一緒に散策している姿や、沖野市民センターにパンの販売に訪れる姿に接することがあります。ああ頑張っているのだなあと感慨します。地域の人々も違和感を示すこともなく、笑顔で接していることを大変喜ばしく感じております。

同じ人間である以上、人格を尊重され、その生きるためへの支援と協力こそが地域に求められる心のボランティアだと思います。

（法人設立 25 周年記念誌より）

【元町内会長　丹野　實様】

2002年8月（平成14年）夏祭り　1年目より様々な地域交流行事を開催

コペルとの出会い

盆踊りの指導を平成 14 年から行ってきました。今年もコロナで盆踊りが実施できなかったことが残念です。近くの高齢者の施設などでボランティアをしているのですが、コペルには、盆踊りでしか関わりが持てていないことが残念です。異動などで、知っている職員も少なくなってしまいました。

盆踊りのエピソード

ゆかたを着て、後ろについて踊っている利用者さんを振り返ると着物の柄が変わっていて、お色直しをしたのかな？と思ったら、双子の姉妹でした。それ以降は喫茶店でコーヒーを飲んでいると声をかけてくれたりして、顔を覚えてくれていることがうれしいです。とにかく盆踊りだけは今後も続けていきたいです。

お祭り当日は、コペルの職員が朝早くから櫓組みを手伝ってくれるのが、本当に助かっています。

これから

防災訓練等町内会で行っている行事もあるので、一緒にできることがあれば、やれると良いなと思っています。他には、缶回収等なら町内で協力できると思うので、必要な時には言ってください。町内に声がけをして協力をします。

【町内会婦人部長　鈴木　仁子様】

2006年４月（平成18年）　敷地内にパン工房オープン

コペルとの出会い

近所に住んでいて、お散歩をしている様子を見ていましたが、施設内のことは知りませんでした。

定年退職後、何か自分に出来ることはないか探していた時に、市民センターのチラシの中にコペルのパン工房で「パンづくり講座」があるのを見つけ、参加したのが出会いです。

ボランティアを始めたきっかけ

講座に参加して、ボランティアを募集していることを知り、お手伝いをすることになりました。

パン作りを、職員の皆さんだけではなく、利用者さんたちも丁寧に教えてくれて、その教え方がとても上手なのに驚きました。時にはやさしく、時には厳しく（笑）。一緒に楽しくパン作りをさせていただいています。

これから

地域の中にコペルのような施設があるということは大変良いことだと思っています。

近所を散歩中に、利用者さんが地域の人と笑顔で挨拶をしたり、話しをしたりすることで、お互いに刺激になっていると思います。コペルの利用者さんのことを知ってもらうためにも、地域の方々にもっともっとコペルに関心を持ってもらえるといいですね。

コロナ禍で中止になっているバザーや夏祭りは、地域との接点だと思うので、早く再開できるよう願っています。

【パン工房ボランティア　叶　洋子様】

他にも様々な地域交流行事等を行ってきました

平成16年　コーヒー教室

平成19年　沖野中学校交流

平成20年　沖野地区市民まつり

平成21年 パンづくり教室

平成22年 沖野東小交流

平成23年 市長さんとお話し

2016年8月（平成29年）　大浴場を居室に、大型ボイラー撤去・交換、空調設備交換など大規模改修工事を行いました。

入浴サービスは一定の役目を終え、利用者の高年齢化やしょうがいの多様化に伴い、活動の居室を増やしました。（センダードグループ）

センダードグループアート活動

去る 6 月 19 日から『つどいの家・コペル』の大規模改修工事が始まりました。

この間、多くの皆様から応援のメッセージと共にご寄附を賜りました。7 月 5 日現在で延べ 287 名の方から 5,036,754 円のご協力をいただいております。新聞の記事を読み、コペルへ足を運んで下さった方もおりました。改めて深く感謝を申し上げます。

（2019.7.5 法人ホームページブログより）

～自ら学び続け、伝え、発信する～

「つどいの家･コペル」開設20年記念　初代理事長　下郡山徹一氏インタビュー

「つどいの家・コペル」開設から 20 年が経過した今、ご支援をいただいた方々や地域との繋がりなどを振り返りながら、今後コペルが共生社会の実現に向けてどういった役割を担い、取り組んでいく必要があるのかを改めて考える機会として、開設当時の理事長であり、コペル施設長としてご尽力いただきました下郡山さんから当時を振り返り、ご苦労されたことや事業所運営において力を注がれたことなどのお話を伺いました。

■仙台市へ要望書提出

法人では当時、無認可施設 3 箇所のほか、仙台市泉区にあった「仙台つどいの家」を運営していていました。それに続く認可施設設置を望む親御さんの想いにどのように応え、実現させたのでしょうか？

◇「仙台市重症心身障害児（者）を守る会」として活動をしていた。まずは、地方行政にどのような伝え方をしていくかを考え「市の南東部に重いしょうがいのある人の国認可の通所施設を作って欲しい」という要望書を提出した。常にしょうがい福祉の進んでいるところを訪ね学ぶことが大切である。その他、政府刊行物等で情報を得ながら学んでいた。

■平成 11 年に国庫補助が採択され、平成 12 年８月着工

当時の地元町内会の建設反対運動等により、なかなか工事に着手することができなかったと聞いていますが？

◇仙台市の方と一緒に近隣の町内会長さんのお宅を一軒一軒まわり挨拶をした。この地はもともと仙台市のもので、近隣の人たちはそのように認識している人が多かった。今では、敷地内に集会所があるし、地域の方々のゲートボール場も敷地を通る形になっている。

■初の民設民営の知的しょうがい者デイサービス事業所「つどいの家・コペル」開設

その当時、仙台市においては民設民営の知的しょうがい者デイサービスの事業所開設は初であり、また複合型（通所更生、デイサービス、B 型通園）の施設としても東北地方でも他になかったように記憶していますが？

◇複合型の発想は他の施設に学んだことも多い。世の中のしょうがい福祉の流れをみて研究をしていればその必要性がわかる。常に最先端を行きたいという気持ちもあったし、良い助言者もいた。

つどいの家はどんなに重いしょうがいのある人も地域で当たり前にその人らしく生活できるよう支援をしている、通所施設は週に 5 日間通わなければいけないが、デイサービスであれば週に 1.2 日から通うことができる。また、送迎や入浴サービスを行うことで、長い間在宅で過ごしてした方の通所へのきっかけとすることもできた。

■「つどいの家・コペル」と命名

どういった想いで、名付けたのでしょうか？

◇「コペルニクス」からとった。「当たり前をひっくり返す」という革新的な発想。

■各グループ名は宮沢賢治の作品から引用

この辺りの想いは何だったのでしょうか？

◇「宮沢賢治の言語辞典」からなづけた。様々な意味を読んで、言葉に重きをおいて名付けた。

名前についても興味をもってもらうことができるし、「言葉」は福祉の世界でもとても大切である。

■これからのコペル、さらには「つどいの家」に対して期待すること

最後に、これからのコペル、さらには「つどいの家」に対して期待することは何でしょうか？

◇日本中のしょうがい福祉の施設がどういうことをしているのかを全ての職員がそれぞれ見てくる機会があれば良いと思う。また、福祉施設に限らず行政や個人で興味のある事でもなんでも、直接みて感じ、考え、それを職員間で発表し、共有をする。それをまとめて文書として形に残し、発信する。

専門家を招いて勉強するのも良いのではないか。職員間で課題を話し合い、共通認識をもち解決していく過程が大切。予算的には厳しくても、時間をかけてでも、多少無理をしてでも研修することが大切である。外に出て見るとなにか 1 つくらい持って帰ってくることができる。自分たちに足りないものはなにか、また、自分たちの良いところにも気が付くことができる。とにかく外にでれば必ず何かを見つけることができる。

【リュミヌー珈琲　マスター佐藤様　インタビュー】

コペルとの出会い

6 年近く前になります。お客さんとして来店してくれた職員さんの「今度利用者さんと一緒に来てもいいですか？」との声掛けからスタートしたと思います。

その後、散歩のコースとして距離がちょうどいいということで、何度かご来店いただいています。気負いなく、ふらっと立ち寄ったという感じでいらっしゃいます。

その時の印象

普段はしょうがいのある方と関わることがなかったので、最初は若干の偏見というかそのようなものはあったと思います。でも、皆さんとてもスマートにお店を楽しんでくださったり、素直に「コーヒーおいしい」と言ってくださったりする、すごくいいお客様たちだなという印象が強いです。

つどいの家後援会募金箱設置のきっかけ

職員の方が設置の依頼にいらして、その後利用者さんと一緒に設置に来てくれました。

お客様で来てくださっていたので、すぐに承諾しました。あまりお役に立ってはいないのですが・・・

バザーへの出店時の印象

普通に受け入れてもらい私も普通に対応し、今日は楽しかったねって終わった感じでした。特別感もなくそこの一つのコミュニティをただただ素直に感じただけだと思います。本来の意味で、すごくよかったなという感じです。

無理に歓迎されていたわけでもないし、無理してかかわったわけでもなく、フラットな関係性という好印象を持ちました。　時間があればまた、ご一緒したいなと思っています。

これから

地域に普通に溶け込んでいるように感じているので、このままの活動を積極的に続けていっていただければと思います。

コロナ禍という情勢もあるとは思いますが、地域の方々とのふれあいを持ちつつ活動を続けていればいいのではないかと思います

以前、夏の暑い日にお邪魔した時に、汗をかいていた利用者さんに、ご自分のタオルをすっと渡してくださった、とても細やかでさりげない気配りをしてくださるマスターです。

おすすめのコーヒーを伺ったら、「お客様の好みを伺って、お好みに合わせたコーヒーをお勧めしております。コミュニケーションが大事ですから。」というお返事でした。

つどいの家・コペルのこれから

当時、下郡山徹一理事長は、しょうがいのある人の権利擁護について、地域への発信や行政への働きかけのみならず、しょうがいのある人への差別解消の推進や若林区の議員との交渉など、とても熱心に取り組まれていました。その背中をみていたのが我々の世代です。

当時は、法人としても最先端の情報を得るために、福祉先進地域に出かけ、様々な法人の方々から刺激を受け、権利擁護の学びの場を設けて人材育成に取り組みました。しかし、今はこのコロナ禍で、県外に外出することもできない状況となり、初代理事長のお言葉通り「研修」することの大切さを実感している次第です。

コペルの職員には、『しょうがいのある人が生きにくさを感じていることに気づいた時には、どのような形でもすぐに行動する職員であること。』また、『様々な人との出会いを大切にしてつながることの重要さを知ること。』の二点を福祉の仕事を担う上で、とても重要であると感じて欲しいと願います。

初代下郡山理事長の言葉を大切に、自分たちに足りないものを探し続けながら、これからの「つどいの家・コペル」の歴史を積み上げていきたいと思います。　【管理者　大累　貴司】

連載

企業の社会貢献活動との連携 part 1

想いとおもいの連鎖

私たちは、しょうがいのある人ひとり一人の尊厳を重んじ、その人らしく豊かな生活を送る事が出来る社会を目指し、様々な活動に取り組んでいます。しかし、この理念とビジョンは、私たちだけの力では実現できません。しょうがい者への理解と活動等への共感をいただき、共に手をたずさえ、ご支援を頂ける多くの主体とその存在が不可欠です。とりわけ企業の力は、多様性や人権擁護の観点からも、様々な場面で連携していく事が必要であると考えております。

このコーナーは、しょうがい者支援に対し「想い」を抱いている企業・団体、グループの皆様と連携して法人つどいの家の「おもい」と一緒に形にしていきたい!と始めました。様々な形での支援や絆を共に発信していけたらと思います。

第１弾は、つどいの家・コペルの保守や緊急修理など常に寄り添って対応頂いている「(株)アトマックス」代表取締役社長 佐々木　修 様に「御社の社会貢献活動」をテーマにお話を伺いました。

㈱アトマックス
代表取締役社長　佐々木修様

・アトマックス様の社是：「礼をつくす・人につくす・己につくす・職務につくす・社会につくす」に込められた想いとは?

人は一人では生きられないし生活してゆく上で周りの人との関わりを持つためには「礼をつくす」事が必要です。自分の欲求だけではなく相手との調和を図るために「人につくす」、自分の能力をどれだけ発揮出来るかが「己につくす」。自分の仕事を好きになる事で達成感も得られるし、お客様にも貢献出来る事が「職務につくす」事と考えております。「つくす」という言葉に込められた「見返りを求めない」という教えは代々受け継がれており、貢献活動としての「社会につくす」に繋がると思っています。私もこの教えをそのまま歴史として伝統として引き継ごうと思っています。住環境というのは、生活する上で無くてはならないものだと思っております。快適な環境で過ごしていただければそれが一番嬉しいです。仕事も生活も相手があって初めて成り立つものなので、コミュニケーションを円滑にするために、まず挨拶を大事にしています。自分から声をかけることから始まり、朝礼時には社員皆で「社是」「社訓」を唱和しています。

社訓の「どんな五則」の意味も読んだそのままで、当たり前のことなんです。いつ如何なる時も忘れないようにしようという意味です。常に「感謝」を忘れずに…　ですね。

・しょうがい福祉に対して期待されている事とは?

しょうがい福祉施設だけではなく、老人福祉、保育所、学校、病院などの公共施設も担当しています。現場で要望を伺う中で思うことは、皆さんに「笑顔でいてほしい」という事です。以前はしょうがい者というだけで特別視されるような事もあったと思いますが、これからは、別世界の空間で生きているのではないということ、同じ空間で生活している同じ人間なんだという事の理解が広がればいいと思います。その中で笑顔が出てくれればいいなと思っています。

（＊アトマックス様には、当法人へのご寄付を何度も頂戴しております。）

(株)アトマックス　www.atmax.co.jp/
○事 業 内 容：空気調和・衛生設備の設計、施工、保守
省エネルギー提案 他
○社名の由来：Atomosphere 都市空間の大気
+ Ability X
（熱エネルギーの新たな可能性）

佐々木社長の穏やかで魅力あふれるお話に時間を忘れる程でした。アトマックスの社員の皆さんの挨拶や笑顔、丁寧な仕事の様子からも、会社の教えが伝わってきます。いつもコペルの住環境を安全・快適に守っていただきありがとうございます。今後共宜しくお願いいたします。

御礼　日本郵便株式会社様

この度、日本郵便株式会社様から年賀寄付金配分事業として助成を受け、つどいの家・アプリでは福祉車両を１台購入しました。

助成を受けて購入した車両は、重度のしょうがいのある利用者さんの送迎や活動で使用するほか、地域貢献の試みとして、無償で地域の方々に貸出も行っていきます。

車両贈呈式では、つどいの家・アプリ利用者代表として１名の方が参加し、日本郵便の方々と力強く握手を交わし、ガッツポーズを決める微笑ましい場面もありました。

ご寄付のお願い

つどいの家は、これまで、多くの皆様のご支援に支えられ、歩んでまいりました。

法人ホームページにも、沢山の方が訪れ、当法人の活動に関心を寄せていただいていることに、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、利用の制限をせざるを得ない事業もあり、新しい日常を模索しながら、より良い事業を推進し、更に力強く歩んでいきたいと思います。皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。法人ホームページからは、クレジットカード決済によるご寄付もご利用いただけます。

また、この度、**税額控除対象法人として仙台市より認定されました**。これにより、当法人へのご寄付は確定申告の際に「所得控除」か「税額控除」のどちらかを選択できるようになり、ご寄付の金額の最大約半分が還付されます。また、遺贈や相続財産のご寄付も、相続税・所得税の非課税対象となります。詳しくは当法人ホームページでもご案内しております。（令和３年 12 月 28 日ご寄付より対象）

例えば 50,000 円のご寄付で

A 子さん
年収 420 万
課税対象所得 226 万円
所得税率 10%

つどいの家を応援したい！

寄付　50,000円

確定申告により減税・還付

税額控除
19,200円
県民税・市民税控除
4,800円

七十七銀行　沖野支店　普通　5354960
社会福祉法人　つどいの家　理事長　佐藤　清
※振込人名の先頭にキフとお書きください。

〈ご寄付お申込フォーム〉
https://www.tsudoinoie.or.jp/

お問合せ先：法人本部（つどいの家・コペル内）☏ 022-781-1571